

# 人的貢献でききり時間切れ

湾岸戦争で日本は130億ドルの資金を拠出したものの人的貢献ができず、「小切手外交」と揶揄された。その後の日本による国際貢献や今後の課題を、自衛隊制服組トップを務めた河野克俊前統合幕僚長に聞いた。

——湾岸戦争で日本が直面した課題は

「日本は当初、何が課題かさえ分からなかった。1990年8月の侵攻を受けて米国が立ち上がり、日本は『何をしてくれるのか』と問われた。資金拠出で対応しようとしたが、自衛隊



河野克俊氏  
海上自衛隊の掃海部隊がペルシヤ湾

## 前統合幕僚長 河野克俊氏

の協力など人的貢献を求められた。自衛隊の憲法違反が公然と指摘され、政治において自衛隊派遣という思考すらなかった時代。政府の協議が大混乱した末に湾岸戦争は終わり、タイムアップ(時間切れ)に。戦後レジーム(体制)の最初のつまずきといえるだろう」

——91年4月に海上自衛隊の掃海部隊がペルシヤ湾

に派遣され機雷を除去した

「クウェートが戦争終結を受けて米紙に出した感謝を示す広告に日本の名前がなかったことが要因になったと思う。多額の資金拠出が全く評価されず政府要人の中で危機感が高まり、国際貢献の模索が始まった。当時

の法制度の中で実施できなかったのが掃海部隊の派遣だ。秩序や平和

に対する日本の国際貢献の起点になった」

——日本は国連平和維持活動(PKO)や米中枢同時テロを受けたインド洋での給油活動など自衛隊の海外派遣の場を広げてきた

「日本は国際社会の中で生きていく必要がある。国際秩序や平和に向けた自衛隊による貢献は国益のためだ。秩序や平和

かわの・かつとし 防衛大卒業後の昭和52(1977)年、海上自衛隊に入隊。自衛艦隊司令官、海上幕僚長などを経て平成26(2014)年10月に統合幕僚長に就任。安倍晋三前首相の厚い信頼を得て定年を3度延長。在任期間は歴代最長の4年半にわたった。66歳。

めにも続けていくべきだ。ただ、日本は憲法の制約から後方支援にとどまっている。例えば国連決議の下で日米豪印が中心となり地域の安定に寄与しようとなった場合、わが国だけ後方支援となれば、日本への評価は厳しいものとなるだろう。後方支援だけでいいのかという課題はまだ克服されていない」

——同盟重視のバイデン米次期政権との関係は

「新政権は外交・安全保障について『米国に任せてくれ』ではなく、『一緒にやる』という考え方で、日本は状況に応じて負担を求められるのではないか」

(坂本一之)